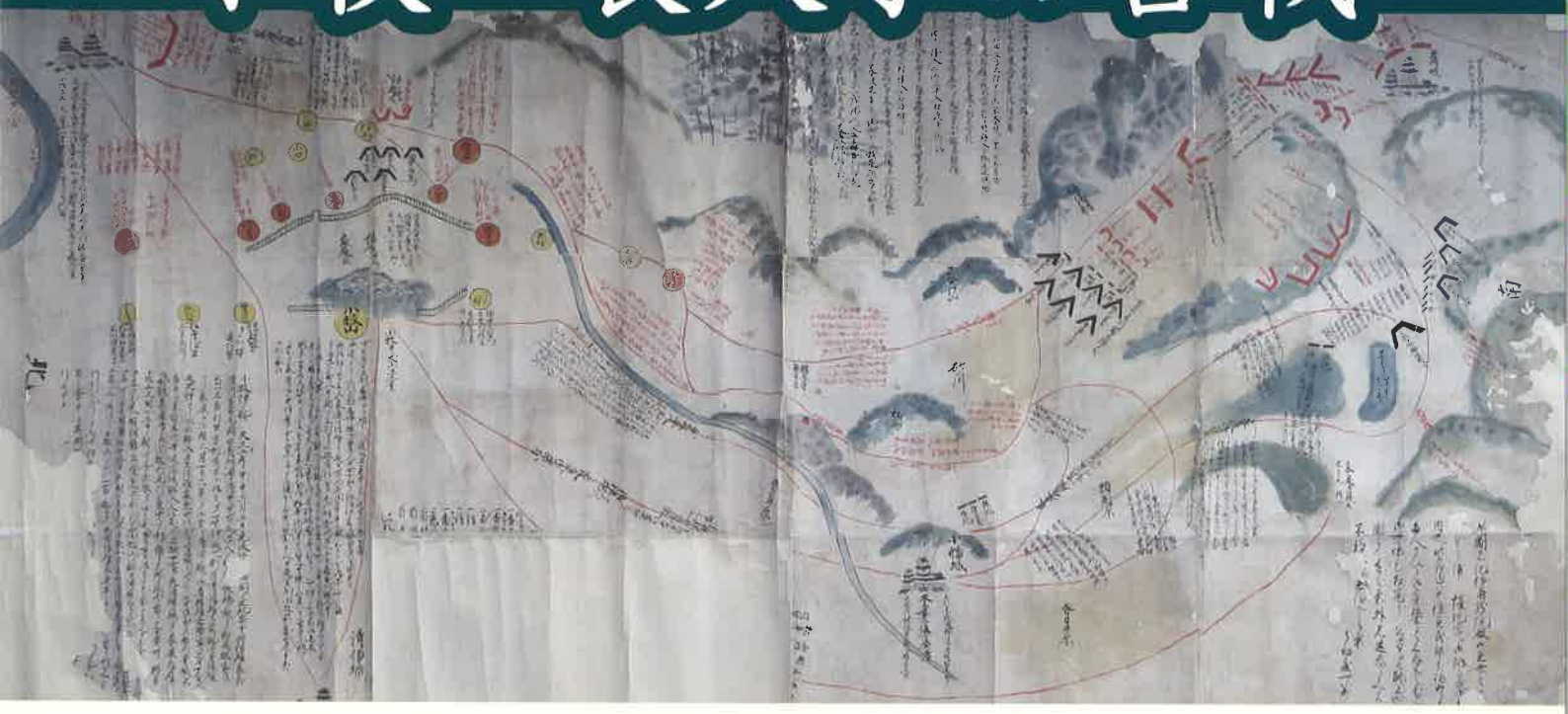
平成26年度小牧市歴史館（小牧城）企画展

小牧・長久手の合戦



小牧・長久手合戦陣立図　（小松寺所蔵 制作時期不明）

紀州徳川家初代頼宣の命で「御年譜」『創業記考異』（註１）の挿図として制作され、紀州東照宮や将軍家に献上されたものであり、小松寺に残るものはその写しである。

（註１）寛文１２年（1672）に完成したもの

会　期　平成２６年１０月１７日（金）～１１月１９日（水）

※会期中は無休

会　場　小牧市歴史館（小牧城）２階 展示室

（小牧市堀の内１－１　TEL　０５６８－７２－０７１２）

ごあいさつ

平成26年は「小牧・長久手の合戦」から430年目にあたります。

本企画展では、「小牧・長久手の合戦」と関係の深い小松寺より、普段見ることのできない貴重な史料をお借りし、展示・紹介します。また、市内外の砦跡・古戦場跡などを中心にパネルで紹介します。

ごゆっくりご観覧ください。

最後に展示品の出品等にご協力いただきました関係者の方に衷心より感謝いたします。

主催　小牧市・小牧市教育委員会・小牧市施設活用協会

小牧・長久手の合戦の概要

織田信長は、天正10年(1582)６月２日、家臣の明智光秀の謀反により、本能寺で最期を遂げた（本能寺の変）。
羽柴秀吉は、ただちに山崎の戦いで光秀を討ち、織田家の跡目相続を決める清須会議で、織田信雄（信長の二男）や織田信孝（信長の三男）を跡継ぎと認めず、織田信忠（信長の嫡男）の子、三法師を跡継ぎとした。そして、信孝と結んで対抗する柴田勝家を賤ヶ岳の戦いで破り、信孝を知多郡野間で自害させ、信長の実質的後継者となった。

信雄は、秀吉の勢力拡大に警戒心を抱き、秀吉と戦うために三河の徳川家康に援助を求めた。天正１２年、織田家と同盟関係にあった家康は、織田家を助けるという大義名分で、１万５千の兵を率いて清須城へ入り、信雄軍と合流する。

天正１２年３月、秀吉軍の池田恒興は、犬山城を奇襲して占拠、森長可は羽黒の八幡林で家康勢と戦って敗れた。秀吉は大坂で長可が敗れたことを聞き、直ちに３万の兵を率いて大垣から犬山に向かい戦況を聞いて、小牧山を北東から包囲するよう各武将を布陣させた。そして自ら楽田に本陣を構えた。

一方、信雄・家康連合軍は、小牧山に本陣を構え、小牧山から東へ連砦を築き、秀吉軍に対した。

これで両軍の戦闘準備が整い、今にも天下分け目の戦いが開始されるばかりとなった。しかし、二度の小競り合いがあっただけで、互いに相手の出方をうかがい、両軍に大きな動きは見られなかった。

４月に入って、秀吉軍に動きがあった。それは、家康方の岡崎城を奇襲しようという恒興の進言を、はじめ取り入れなかった秀吉が聞き入れ、作戦が始まった。

しかし、この動きは、家康側に通ずる篠木の住民により小牧山の家康本陣に通報される。すると信雄・家康連合軍の追走がはじまり、両軍は長久手で激戦を重ねたが、やがて家康軍の優勢となる。この敗報を聞き、秀吉は２万の兵を率いて長久手へ向かったが、家康はいち早く兵をまとめ、遠回りして小牧山へ帰った。夜が明けて、このことを知った秀吉は、なすすべもなく、兵を率いて楽田に帰った。

その後、両軍のにらみ合いが続いたが、大きな合戦をすることもなく、５月１日、秀吉軍の主力は小牧から退き、また家康軍も７月中旬には兵を引いた。

この年の１１月、桑名で秀吉と信雄が和議を結び、次いで信雄の勧めで家康も秀吉と和解し、８か月にわたる小牧・長久手の合戦は終わった。

「天正小牧山合戦対陣俯瞰図」（『旧蹟と名所　小牧』昭和４８年２月発行　編集 小牧市経済福祉部商工課）

「小牧・長久手の合戦」と小松寺

小松寺は、市内小松寺にある新義真言宗智山派長福寺末寺である。『小牧市史』によると、「承安３年（1173）、小松内大臣平重盛が改築、寺領1,000余石を寄進して小松寺と名づけたという。その後、承久の変の際、兵火にかかって堂坊は焼失し廃寺同様になったが、応仁の乱の後、全慶上人が再建した。しかし、小牧・長久手の戦いで豊臣方の主陣地となり、すべて焼失した。明暦３年（1657）になって本堂を再興、寺領約240石を有した。明治維新の廃仏棄釈により廃寺となり、建物は売却されたが本堂のみは残された。明治24年の濃尾地震で破損したが、同27年に大修理され、現在に至っている。」とある。

幾度となく兵火の難を受けながらも、現在まで大事に守られてきた「小牧・長久手の合戦」の貴重な史料の一部を紹介する。

織田信雄安堵状

当寺領高頭参
拾弐貫文余（但私徳弐拾四貫余）
如前々今以不可有
相違其外何も可
任先判旨者也
仍如件
天正拾年
八月十一日　花押
小松寺并遍照寺
門前

（解説）
清須会議の一ヶ月ばかり後の日付があり、信雄が尾張を領有していたころの小松寺に与えた安堵状（註２）である。
（註２）幕府が土地の所有を公認する文書のこと。

池田恒興軍陣制札

條々　小松寺
一当手軍勢乱妨狼藉
之事
一放火之事
一山林竹木伐取事
右條々堅令停止□
若令違背者於在之者速
可処厳科者也仍如件
天正拾弐
三月十四日　恒興　花押

（解説）
天正十二年三月十三日夜、大垣城主池田恒興は秀吉の要請にこたえて犬山城を奇襲した。その翌日の三月十四日付恒興の筆による制札。翌四月九日恒興は長久手で戦死。
この文書は、合戦中に軍陣で禁止する行為を示したものである。

森長可禁制札

禁制　小松寺
一当手軍勢乱妨狼藉
之事
一放火之事
一山林竹木伐取之事
右條々堅令停止訖若
違背者於在之者速可処
罪科者也仍如件
天正拾弐
三月廿七日、長可　花押

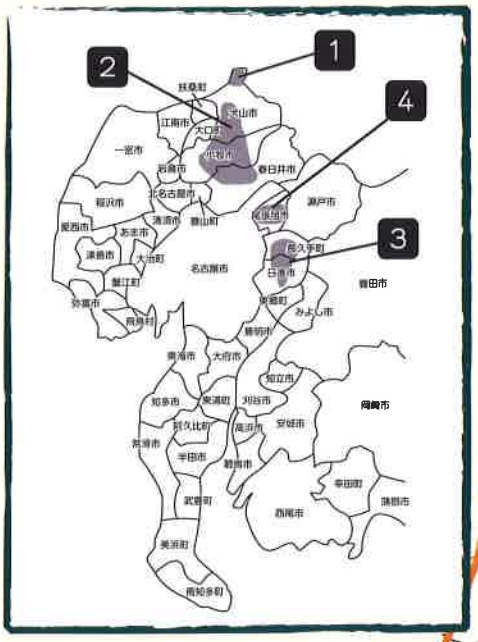
（解説）
天正十二年三月十六日、羽黒八幡林の戦いで秀吉方の森長可は家康方の酒井忠次に敗れた。秀吉は大坂から二十七日正午頃犬山城にはいり、西軍は着々布陣を進めた。そのころの制札。長可も四月九日長久手で戦死。
禁制とは、ここに書かれている行為を禁止することである。

太閤軍陣制札

禁制（尾州内）小松寺遍照寺　冨密
一軍勢甲乙人乱妨狼藉事
一田畠荒作毛事
一対地下人不謂族申懸事
右條々堅令停止□若於違
犯輩者、速可処厳科者也
仍下知如件
天正拾弐年卯月日
筑前守判

（解説）
長久手の戦いのあった天正十二年四月に作られた制札であるが、戦いの前か後かは明らかでない。
この文書は、合戦中に軍陣で禁止する行為を示したものである。

～小牧・長久手の合戦　史跡マップ～



1 犬山北部方面

2 犬山・小牧・春日井方面

3 長久手・日進方面

4 尾張旭方面

小牧・長久手の合戦　史跡めぐり

1．犬山城
■犬山市犬山字北古券65－2

天文6年(1537)織田信康(信長の叔父)が築城。小牧・長久手の合戦では池田恒興に攻略される。

2．八幡林古戦場
■犬山市羽黒八幡東

秀吉方の森長可（美濃兼山城主）は３千の兵を率いてここに陣を構えた。家康方の酒井忠次・神原康政・奥平信昌らが５千の兵でこれに対峙し、勝利をおさめた。

3．小牧山城
■小牧市堀の内一丁目１

信雄・家康連合軍の陣城。永禄６年（1563）に織田信長が築いた居城を改修し、山頂に本陣を置き、山の中腹から山麓にかけて、曲輪・土塁・虎口等を配し、山の周囲は二重の土塁と空堀を巡らせた。家康が長久手に出陣した際には、酒井忠次・本田忠勝・松平家忠が守備した。

4．蟹清水砦
■小牧市小牧四丁目

蟹清水砦は、小牧山城築城当時は、丹羽長秀の居城があったと伝えられる。砦の規模は、東西約83m、南北約110m。砦跡は段丘上にあり、清水が湧いていた。

昭和20年代までは、堀や土塁の跡なども残っていたが、現在は駐車場や住宅となり、石柱があるのみである。

5．北外山砦
■小牧市北外山

北外山の古城を修理して造られた連砦。砦の規模は東西約49m、南北36mとされ、「城島」という小字が砦の名残。土塁の高さは約２mあったといわれている。

この石碑は、約50m北側の民家敷地内から移設したものである。

6．宇田津砦
■小牧市東三丁目

砦の規模は東西に約61m、南北に約68mのかなり大きな平城で、総構は約216m四方あった。

秀吉軍の二重堀砦に近いため、家康は北外山・宇田津・田楽を結ぶ軍道を新しく作った。現在は、工場敷地内にあるため見学はできない。

7．田楽砦
■春日井市田楽町

池田恒興の犬山城攻めのとき、城を落ち延びた犬山城の家来たちが田楽の伊多波刀神社に集まっていたところ、家康が自ら出向いて長江平左衛門の屋敷に集め、砦を造り守らせたのが、この砦の始まりとされている。

昭和30年代まで、土塁が一部あった。

8．青塚砦
■犬山市字青塚22－3

青塚古墳は４世紀半ばごろに築かれ、尾張地方で２番目に大きい前方後円墳。

小牧・長久手の合戦では、森長可が兵約３千で陣を構えたとされている。

古墳は、自然地形を利用した周濠（堀）があり、砦には好適な地であった。

9．楽田城
■犬山市楽田

永正年間（1504～1520）に織田久永によって築かれたとされている。

かつてはこの一帯は「城山」とよばれ、東西68m、南北61mで、四方を二重の堀に囲まれていたとされる。

秀吉方の堀秀政が入り、さらに秀吉の本陣となった。

10．内久保砦
■小牧市久保一色東二丁目

東西約16m、南北約23mの規模であったとされる。守将は蜂屋出羽守頼隆・金森長近らで、約３千の兵で陣を構えた。

現在、内久保山南西麓にある三明神社周辺が砦の位置と考えられるが、正確な位置ははっきりしない。

11．外久保砦
■小牧市大字久保一色

久保山の西端、比高34mの丘の上に築かれ、東西約41m、南北約29mの砦。守将は丹羽長秀で、兵３千で守備にあたった。合戦後は、秀吉自らこの砦に出て全軍を指揮したと伝えられ、太閤山と呼ばれている。

熊野神社一帯が砦の位置とされる。

12．岩崎山砦
■小牧市大字岩崎

岩崎山山頂に築かれた砦。秀吉は、小牧山に対して砦を構え、稲葉一鉄・貞通父子らを守将として、兵４千で守らせた。

岩崎山は標高54.9mで、山頂付近からは小牧山周辺を一望できる。

13．小松寺山砦
■小牧市小松寺法華山1119

小松寺山には２つの砦があり、東砦は旧小松寺山一帯に18m四方の規模。西砦は小松寺あたりに、東西約15m、南北約18mの規模であったと伝えられる。守将は丹羽長秀（長秀の子長重の説もあり）。

小松寺山はかつては、小牧山と肩を並べる高さがあった。

14．二重堀砦
■小牧市大字二重堀

秀吉軍の最前線の砦であった。東西約100m、南北約72m、土塁の高さは約1.5mであったとされる。

日根野弘就兄弟等で守らせたが、天正12年(1584)４月の家康軍の逆襲で多数の死傷者が出た。

現在は、個人宅南西隅に接する道路沿いに「日根野備中守弘就砦」と刻まれた石碑がある。

15．田中砦
■小牧市大字東田中字金井戸

堀長政、蒲生氏郷、加藤光泰らが守備したとされる。東西に約29m、南北に約54mの砦の規模であったという。

■は信雄・家康連合軍の砦　■は秀吉軍の砦　■は古戦場

１６．姥ヶ懐（うばがふところ）古戦場跡
■小牧市小牧一丁目

秀吉軍が兵を出した地であり、小牧高校と市民会館の間が姥ヶ懐古戦場と考えられている。
現在は、小牧高校敷地の北東で、東西に流れている用水にかかっている小さい橋の北に、「姥ヶ懐古戦場」と刻まれた石碑が建てられている。

１７．岩崎城
■日進市岩崎町字市場 67

築城時期は不明。
天文７年(1538)ごろ丹羽氏清が入り、周辺地域に勢力を拡大。
小牧・長久手の合戦では４代城主、丹羽氏次が家康軍につき小牧山に出陣、城内は弟の氏重が留守を預かった。
しかし、岡崎攻めのため城下を通過する秀吉軍の池田恒興の軍勢にせめられ、全員討ち死にし、落城した。

１８．白山林古戦場
■尾張旭市北本地ヶ原三丁目

天正 12 年（1584）４月９日早朝、信雄・家康連合軍の先遣隊は、秀吉軍の最後尾総大将・三好秀次の軍が白山林で朝食をとっていたところを急襲し、不意をつかれた三好軍は総崩れとなる。
尾張旭市の長坂町、南新町、北本地ヶ原町、上の山町にわたる一帯が「白山林」であったとされる。

１９．木下勘解由塚
■長久手市荒田９－１

木下勘解由の戦死地。
三好秀次は白山林の戦いで敗北し、ここ（長湫字荒田）まで徒歩で逃げてきて、木下勘解由と出会った。
自分の馬を秀次に与えて逃れさせ、追ってきた敵と戦い戦死する。
東 50m に弟の木下周防守戦死地とされる塚もある。

２０．床机石
■長久手市岩作色金（色金山歴史公園内）

秀吉方岡崎別働隊を追って北方から進軍してきた信雄・家康連合軍が軍を止め、色金山山頂の巨石（床机石）を家康が腰掛けがわりに使い、軍議を開いたと言われている。
家康は、色金山の山頂から秀吉軍の動きを見ていたと思われる。

２１．堀久太郎秀政本陣地跡
■長久手市防の後 113（桧ヶ根公園内）

秀吉方岡崎別働隊の軍監であった堀秀政が、三好隊を追う信雄・家康連合軍を迎え撃つために陣を張り、榊原康政・大須賀康高らを打ち破った。
当時の桧ヶ根は標高 81.2m。山頂に立てば、北から軍を進める信雄・家康連合軍と、南に先行する味方の池田・森隊の両軍が同時に見渡せられるという絶好の場所であった。

２２．御旗山
■長久手市富士浦 602

信雄・家康連合軍は、秀吉軍を分断するために迂回し、長久手を見渡せる色金山に着陣した。しかし、桧ヶ根の敗戦を聞いた家康は、堀秀政勢後方の高地（現在の御旗山）へ前進して頂上に金扇の馬標をたて、池田恒興・森長可勢との間を分断した。
この時、秀政は戦況不利と見て、兵を引いた。

２３．勝入塚
■長久手市武蔵塚 204（長久手古戦場公園内）

池田恒興(1536～1584)は、大垣城主で秀吉方に参戦。岡崎攻めを秀吉に進言し、自ら軍を率いて侵攻した。しかし、途中の岩崎城攻めに手間どり、敵の先遣隊に追撃の機会を与えてしまう。そのあと、この地、仏ヶ根の戦いで戦死。
塚名は、法名勝入斎にちなんだもの。

２４．庄九郎塚
■長久手市武蔵塚 204（長久手古戦場公園内）

池田恒興の長男で、池田元助(1564～1584)の戦死場所と伝えられる。
幼少の頃から織田信長に仕え、本能寺の変後、父と共に秀吉に従い、山崎の戦いで明智光秀を破り秀吉の家臣となる。
小牧・長久手の合戦では父に従い戦った。
塚名は元助の幼名にちなんでいる。

２５．武蔵塚
■長久手市武蔵塚

森長可（美濃国金山城主）は、武蔵守（むさしのかみ）と呼ばれ、この官名から武蔵塚とよばれている。勇猛果敢な武将として知られ「鬼武蔵」とも呼ばれた。
小牧・長久手の合戦では眉間を撃ち抜かれこの地で即死したと伝えられる。

＜参考文献＞
『愛知県史　資料編 12　織豊 2』編集　愛知県史編さん委員会　発行　愛知県　2007 年／『戦争の日本史 15　秀吉の天下統一戦争』著者　小和田哲男　発行所　株式会社　吉川弘文館　2006 年／『戦国武将合戦事典』編者　峰岸純夫・片桐昭彦　発行所　株式会社　吉川弘文館　2005 年／『小牧・長久手の合戦　ガイドマップ』編集・発行　小牧市教育委員会　2008 年／『長久手市文化財マップ』編集・発行　長久手市生涯学習課　2013 年／『小牧・長久手の戦い』『歴史群像シリーズ 51　戦国合戦大全』著者　下村信博　発行所　株式会社学習研究社　1977 年／『小牧の文化財第 20 集　小牧の歴史』編集・発行　小牧市教育委員会　小牧市文化財資料研究会／西尾張地方の戦国マップ　資料編　発行　いちい信用金庫　2009 年／『岩崎城の戦』著者　武田茂敬　発行者　日進市教育委員会　1994 年／『劇画　小牧・長久手の戦い　激突　秀吉と家康』編集　長久手市教育委員会　企画・発行長久手市　2012 年／『旧蹟と名所　小牧』1978 年編集　小牧市経済福祉部商工課／『尾張・織田一族』著者　谷口克広　発行所　新人物往来社　2008 年／『小牧叢書１０小松寺文書』編集 小牧市文化財資料研究会 発行 小牧市教育委員会 1986 年／『小牧市史　本文編』編集　小牧市文化財資料研究会 発行 小牧市教育委員会 1976 年

展　示　目　録

No.	史　料　名	所　蔵　者
①	小牧・長久手合戦陣立図	小松寺
②	織田信雄安堵状	小松寺
③	池田恒興軍陣制札	小松寺
④	森長可の禁制札	小松寺
⑤	太閤軍陣制札	小松寺
⑥	小牧山合戦配陣図	個人蔵
⑦	小牧山合戦絵図	個人蔵
⑧	小牧・長久手合戦場の図	小牧市
⑨	小牧山二廉正秀吉ヲ追フ	小牧市
⑩	小牧山両将軍大合戦之図	個人蔵

出品協力：宗教法人　小松寺

平成２６年度小牧市歴史館（小牧城）企画展「小牧・長久手の合戦」
平成２６年１０月１７日

編集　小牧市教育委員会文化振興課文化財係
〒485-8650　愛知県小牧市堀の内三丁目１番地
TEL (0568)76-1189
小牧市施設活用協会
〒485-0822　愛知県小牧市大字上末２２３３番地２
TEL (0568)79-7715